

## 令和元年度第3回公立園最適化検討委員会 議事録

1. 日 時 令和元年8月5日(月) 午後3時～午後4時40分
2. 場 所 門真市役所 別館3階 第3会議室
3. 出席者 久保田委員長、山田副委員長、辻本委員、明浄委員、城野委員、大西委員、五十野委員
4. 事務局 こども部 内田部長、坂本次長  
こども政策課 田代課長、楠本課長補佐、浅尾係員  
保育幼稚園課 西川課長、大中課長補佐  
子育て支援課 寺西課長
5. 傍聴者 1名
6. 議 題 公立園のあり方についての検討
7. 議事録

事務局： 定刻になりましたので、ただいまから第3回門真市公立園最適化検討委員会を開催させていただきます。こども政策課課長補佐の楠本でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、何かとご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、先ほど実施させていただきました、公立園の視察につきましては、ご参加いただいた委員の皆さまにおかれましては、ご協力のほどありがとうございました。

引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、失礼ながら座って、進行の方させていただきます。

本会議については、後日、議事録を作成いたしますことから、会議の様子を録音させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、委員7名のご出席をいただいております、委員の過半数がご出席されておりますので、門真市附属機関に関する条例施行規則第5条第2項の規定により、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。なお、本日、足立委員は日程の調整がつかず、ご欠席でございます。

また、本日は1名の傍聴者が来られておりますので、会場に入っております。

それでは、会議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

まず、次第。

資料1「これまでの検討委員会が出た意見等の整理について」。

資料2 「門真市就学前教育・保育共通カリキュラム」。

資料3 「浜町保育園周辺地域の状況について」。

以上でございます。

資料に不足がございましたらお申し出ください。

それでは、ここからの会議の進行は久保田委員長にお願いしたいと存じます。久保田委員長、よろしく願いいたします。

委員長： 本日は、私の提案で、公立園の視察を実施させていただきました。公立園の最適化を検討していくにあたり、やはり自分の目で現場を見ることは大事ではないかという思いで、実施させていただきました。ご参加いただいた委員におかれましては、ご協力ありがとうございました。

引き続き会議ということで、長時間になりますが、よろしく願いします。

それでは、議事次第に沿って進めさせていただきます。

次第の1つ目、議題の1「公立園のあり方についての検討」ということですが、前回の会議では、最後に事務局より、「次回は、これまでの会議で出た意見をまとめたものを作成し、さらに議論を深めていきたい」とのことでしたので、まず、始めに資料の説明について事務局からお願いいたします。

事務局： それではご説明させていただきます。

資料1「これまでの検討委員会で出た意見等の整理について」をご覧ください。

これから、最終回に向けて答申書を作成するにあたり、さらに議論を深めていくために、第1回・第2回の内容や、会議で出た意見等をまとめた資料を作成いたしましたので、ご説明をさせていただきます。

1ページ目では、「1. 第1回・第2回の検討委員会の内容」ということで、第1回検討委員会では、市長から検討委員会へ、諮問事項1「今後の本市における公立園の担うべき役割について」、諮問事項2「教育・保育の適正な提供体制等について」の諮問を行いました。

次に、事務局より門真市の人口動態等の現状や就学前の教育・保育を取り巻く現状等について紹介ということで、市の人口が年々減少しており、今後も人口は減少すること、就学前人口についても10

年後には約 22%減少することや、公立幼稚園の在園児数が大きく減少している状況、公立園の老朽化や耐震工事ができずに仮園舎で対応している状況等について報告を行いました。

次に、第2回検討委員会では、小学校区別の就学前児童人口の減少率の紹介や、地域子育て支援について、公立幼稚園・認定こども園の通園バスについての補足説明を行いまして、次に、「公立園の最適化にかかる市の考え方」について報告、ということで、公立園の果たすべき役割として、①の門真市就学前教育・保育共通カリキュラムに基づく教育・保育実践の先導的な役割、②の地域子育て支援を実施する拠点の1つとしての役割、③の適切な対応や配慮を必要とする障がい児保育などを充実させるための先導的な役割、公立園の再編としまして、公立園を南北に分かれる教育・保育提供区域に1園ずつとすると。すなわち3園設置している国道163号以北の地域において民営化や統廃合を進め、公立園を1園とすると、ご説明の方をさせていただきました。

続いて、2ページからは、「2. 第1回・第2回の検討委員会で出た意見」ということで、公立園の最適化に関する市の考え方等に対して、検討委員会で上がった意見を整理いたしました。四角の枠内が各委員からの発言内容となります。

出た意見の方を読ませていただきます。

①の「検討委員会のあり方について」、では、最適化の定義が必要ではないか。最適化というのが、単なるスケールの最適化なのか、公立の役割を含めてのものなのか、それが公立から次の段階にいけるような役割を含めてのものなのか。スケールだけではなく、門真市の教育・保育をもっと良くしていくための議論にしたい。

②の「公立園の最適化にかかる市の考え方について」、では、公立園の果たすべき役割のうち、「(1) 門真市就学前教育・保育共通カリキュラムに基づく教育・保育実践の先導的な役割」では、私立園同士は月1回の交流があり、私立の保育園、幼稚園の交流も年に1回実施しているが、公立園、私立園の交流はあまりない。公立園が先導役を担い、園の保育内容の公開や民間園との交流、研究会や研修を実施しフィードバックをしていくことで、市全体の教育・保育の向上につながると思う。公私の保育園、幼稚園、小学校が共通した意識のもとで就学前教育・保育共通カリキュラムに沿った教育・保育に取り組み、連携することで、子どもの成長につながるのではないか。幼稚園と小学校との人事交流は公立だからこそできる。幼少

連携の核として推進していくリーダーにもなれる。そこに公立園としての役割があるのではないか。大和田幼稚園は大幅に定員割れをしているが、先導的な役割が果たせているのであればそのようなことにはならないのではないか。公立園の役割は果たしていると思うが先導的となるとどうか。

「(2) 地域子育て支援を実施する拠点の1つとしての役割」では、市の施策を知ること、子育てが楽になる保護者もいると思うが、現場の職員も施策を知らないことが多い。園が情報の提供をしていくことは大きな仕事である。園によって延長料金が発生する時間に差がある。18時以降も預かってもらえる園はありがたい。門真市には夜間保育園がない。近隣市、寝屋川市にはある。市に1つあれば21時22時まで仕事をされている方が利用できる。しかし民間園となると、保育士の確保が難しく、とても対応できない。遅くまで働いている人は生活費を稼がないといけない方が多い。延長料金を無くすというのも支援になる。

「(3) 適切な対応や配慮を必要とする障がい児保育などを充実させるための先導的役割」では、民営化した場合、最初は混乱があると思われる。また、障がい児の受入が多いので、民営化した場合、園とは別に継続して通えるようなところを確保しなければならない。並行通園できるような形がいいと思われる。並行通園を行う施設は公立でやらなければならないわけではなく、民間でもできると思う。保育園や幼稚園の先生の対応にも限界があるので、言語支援や療育支援については専門職が対応すべき。民営化となった場合、障がい児の受入は民間園で担っていかねばならなくなる。そうなった場合、手がかかる子に手をかけるので、手がかからない子には手をかけない状態になりかねない。公立園がそうならないようにしているのであれば、かなり疲弊しているのではないか。専門的な先生がそこに入って言語・療育をみることで個別に対応しているなら別だが、130人の定員で50人しかなくて、障がい児が多いとなると、障がいのない子の保護者は大和田幼稚園を選んでいないことになる。

事務局の意見としましては、障がい児への加配があるので、元々の先生のみで教育を行っているわけではない。障がい児の人数だけで見ると多いが、全てが最重度の子どもというわけではない。公立園に多い理由として、園長の話では、私立の体制が整っておらず受け入れてもらえない子やこども発達支援センターからの紹介で来られている子もいるとのことである。

多様化したニーズに公立園が全て対応するならば公立のニーズはある。夜間保育や休日保育をする、障がい児を全て受け入れる等、ある程度の人員をキープして、民間では手を出しにくいところをやっていくというのは、1つの役割としてあるのではないか。

次に、「公立園を南北1園に再編することについて」では、園を選ぶ際には、公立園、私立園の意識よりも、家からの近さや保育内容を考える。民営化となった場合、これから子どもが減っていく中で受けてくれる法人がいるのか。市に金がないから法人に払ってもらおうというような民営化にならないようにしてもらいたい。大和田幼稚園は子どもが少ないぐらいで問題がないかもしれないが、浜町保育園は早く仮設から出してあげたい。人口が減ってきているので、今年度は小規模保育施設への入園状況がよくない。このままだと数年でなくなる場所も出てくるのではないか。

最後に、③の「その他」の意見としましては、公立園の役割として公立園にコストをかけて、保護者から利用料をもらわないとなると、民間の経営を圧迫するので困る。若い世代が移り住むような施策を考えないと門真市が立ち行かなくなる。保育園、幼稚園は小学校との連携を密にしていくことで、子どもの成長につながる。そこに家庭も入って連携をするべき。園と小学校との連携は校長先生によって差がある。私立園は特色をアピールしているので、保護者はいろいろ検討をされるが、公立園はあまりないので、分からないと思われる方が多いように感じる。良いところがあればもっとアピールするべきではないか。若い世代に共働きが多いとしたら、その人達が暮らしやすい、子育てしやすい自治体になると、人口も増えてくるのではないか。若い世代には分かりやすい施策を提示すべき。待機児童が解消されても保育士が必要なくなるわけではない。保護者のニーズが多様化すると、むしろ数が必要となる。保育士を確保し、多様なニーズに対応できる自治体は若い世代を取り込みやすくなる。等の意見がありました。

報告は以上となりますが、本日、これから、議論を進めていくにあたり、ご参考にしていただければと思います。

委員長： ありがとうございます。

ただいまの説明に関しまして、ご質問、ご意見等はございますか。

委員： (3)の「適切な対応や配慮を必要とする障がい児保育などを充

実させるための先導的な役割」の4ページのところで、私は第2回の会議に出られていないのでこの部分の経緯は分かりませんが、こども発達支援センターからの紹介でと書かれていますが、紹介を受けているわけではありません。

実際は、こども発達支援センターから幼稚園に見学という形で保護者が来られます。それは、南幼稚園と大和田幼稚園の2園があったときは交代で毎年見学していただいていた。その時に、幼稚園の教育がどのようなものかを話をさせていただいたり、支援が必要なお子さんが来られた時にどのような受入体制となっているかを質問されるので、それについてお答えしている形ではありますが、センターの先生から紹介をされているわけではありません。

委員長： 自分から選んで来られているということですね。

委員： そうですね。いろいろと見学にも行かれますし、センターの先生とも相談をされて来られています。

並行通園を利用されている方もおられますし、利用されていない方もおられます。そのあたりはセンターで話を決めて来られています。

それと3ページのところで、専門的な先生が入って言語や療育を見るというところですが、そのあたりは巡回相談や訪問支援というものがありまして、巡回相談の方はこちらから来てくださいますようお願いして、支援の必要なお子さんだけでなく、いろいろなお子さんを見ていただいています。訪問支援の方は、保護者の方が訪問支援をお願いしますとおっしゃって、訪問支援の先生が来られて、集団の中でどうなのかというのを見てくださってアドバイスを受ける感じですか。

あと、言語の方は保護者の方で言語の訓練を受けておられる方もおられますし、こちらで言語の先生に園へ来てもらって直接子どもさんを見てもらうことはないのですが、個人的にそういうところにかかって対応されていたり、そこでの話を聞いて、幼稚園でできることは何かを検討して、対応しています。

それと、並行通園と言いましたが、こども発達支援センターだけでなく、小学校でいう放課後デイのような形のものもありますので、それを利用して幼稚園が終わってからそこに行かれている方もおられます。人それぞれなので、そういうものを利用してもらっている形になります。

委員長： ある程度言語・療育については専門的な先生が入った対応ができているということですね。

委員： はい。そこで話を聞いてどのような対応がふさわしいのかや、こういう対応がふさわしいものなのかななどをお聞きしています。

委員長： 逆に言うと、ある程度先導的な役割ができているということになりますね。

委員： なかなか難しい部分ではありますが。

委員長： 他にこの資料1に関して何かありますか。

資料1に関しては、これからの議論で参照していくかと思っておりますので、これくらいにしておきまして、先ほど、全員の委員では行けなかったのですが、何人かの委員で浜町保育園の施設に行ってきましたので、その件について、ご意見などをいただければと思うのですが。

委員： 外から旧園舎を見て、その後に仮設園舎の中まで見させていただいた中で、あまり良いことではないですが、仮設園舎の方が過ごしやすいのかなという印象を受けました。

ただ、子どもが保育や教育を受ける環境であると考えた時に、門真市の公立園の先導的な役割という部分で浜町保育園の存在を考えると、やはり、仮設園舎で先導的な環境が整えられているというのは。

構造の質というか、人的なことは分かりませんが、住環境だけでなく、遊びの環境で、部屋の遊びの環境、園庭の遊ぶ環境であったり、特に園庭の方は仮設感が否めないところがありますし、先導的と言うのであれば、やはり門真ですごく良い環境、遊びの豊かな環境が整っている、こういうのがカリキュラムに沿ってしていることなんだよというには、環境面だけで見た時にやっぱり足りないのかなという感想はあります。

ですから、大和田幼稚園さんは見えていないから分かりませんが、門真にはたくさんの幼稚園さん、保育園さんがあるのですが、そこと比べた時に浜町保育園さんの環境は素晴らしい環境

だなと感じるかと言うと、残念ながらそこまでは現状では感じないですね。

期限付きの仮設となっているところで、園庭のような場所は触りにくかったりとか、規制がどうしてもあるでしょうし、室内にしてもいろいろと不都合や不便もあったりすると思うのですけれども。働かされている保育士さんが、もっとこのような環境を整えたいというのが、期限付きだと実現しにくい。3年間しかそこにいないのであれば、そこにお金をかけるのはちょっと、ということになるかもしれないですし、環境面ではちょっと。

過ごしやすそうな仮設園舎で良かったなと思っていますけれども、もっともっと良いことができるんじゃないかなというのは感じましたね。

委員： 前の古い園舎で働いたことがないので分かりませんが、やっぱり比べると、今おっしゃっていたとおり仮設園舎の方がきれいですし、トイレも広いとか、すごく使いやすくなっているのかなと思いました。でも、園庭を見た時に、やっぱり仮設というか一時的なところなのかなというのは否めないかなと。ジャングルジムぐらいしかなないし、木も何もないし、小さいお子さんが遊ぶような環境なのかなと。

委員： 砂場はありましたけどね。

委員： そうですね。砂場はありましたけれども、季節によって木が色づいたりだとかを感じられる環境は整っていないので。仮設と言えましょうなるのかもしれないですけれども。そのあたりはおっしゃっているとおり、周りと同じような環境を整えるのは難しいのかなと思いました。

ただ、園の中の使い勝手なんかはよくできているのかなとは思ったのですけれども。

委員： 広さがすごく広いし、形もすごく良かった。前の道路もそんなに多くの車が走るようなところでもないので、園があるにはすごく良いところなのかなと思うのですけれども。

委員： 小学校とも隣接していますしね。元々、浜町幼稚園があった場所



で、すごく行き来していたというのは聞いていますので、交流という面でもいいのかなと思いました。

委員長：他に何かありますか。

委員：今のお二方の意見は保育の現場最前線の方々の感想なので、やはり素晴らしいのだろうなと思います。

仮設園舎を1つのモデルルーム的な視点で見た時に、きれいなトイレですし、運動場も広いですし理想像をあそこに作っているのであれば、あれは仮設としてではなくて、今後こうなりますよというこれから入園する子ども達や保護者へのメッセージとしても使えるのではないかなと思いました。

もう1つ、仮設という枠に入れた時に、仮設の3年間で卒園していく子ども達からすれば、あれが自分の卒園した園の思い出になりますよね。だから、その後どこかに移って、ここだよと設定されたとしても、彼ら彼女らからしたら、今いるあそこが思い出の場所になる。そうなのであれば、なおさら仮設という扱いではなくて、このような理想の園を建てていくんだということをこの最適化計画の中にもう少し文言として盛り込んで、あそこを1つの見せ方というかモデルとして使えたら、もっと立体的になるのではないかなと。

そうしたら、そこに勤められている方々もいろいろな意見を出し合って、もっともっと良い状態としていければ門真市としても公立園というものが、もっと今の時代にそぐうようになれるのではないかなと。先ほどおっしゃったように、横に小学校がありますよと、ほとんどの連携がとれますよと、もっともっと謳っていけば、もしかしたら今のマイナスイメージがプラスのイメージになるのではないかと感じました。

副委員長：私も他の委員さんから出てきた意見とほぼ同じです。仮設ということで子ども達が不便な思いをしているのではないかと、少し心配していたのですが、建物はもちろん新しいですし、廊下もすごく広いですし、トイレもすごくきれいでしたし、調理室もすごく広く作ってありましたし、子ども達が生活する環境としては、快適に生活していけるのだろうなと思いました。

けれども、子どもが学ぶ場でもあるので、生活と教育の両方の場であるので、子どもたちがどれだけ主体的に活動できるような教

材・教具があるのかなと、環境がどのくらい整っているのかなというところで、先ほどおっしゃったように3年間で卒園していく子たちもいるので、その子たちの育ちや学びを保証するために、今できることとして、もう少し外の環境を整えることができればよりいいのにな、とすごく感じたところです。

ただ、心配していたことは危惧に終わったところにあるので、本当にきれいな施設だったのでそこは安心しました。

委員長： 僕を含む先生方は今日1回見ただけで、どうしても保育の質で言えば構造的な質しか見ることができないですね。でも、そういうところを見ると思っていたよりはきれいだなと思ったところですが、一方で、全体的にちょっと無機質感が仮設だとありますので、その中で保育者の方が一生懸命されているのですけれども、保育環境としてこれでいいのかと言われると、そこまではいかないのじゃないかなと。

ただ、他方で、これは先生方も共通の意見だと思いますが、潜在的なところで言えばあの場所は潜在能力がある場所だと思うのですね。まず、広いし、使いやすそうな地形ですし、隣に小学校があるということで、接続ということが重要となっている時には、あそこに門真のシンボリックなこども園なんかができてもいいんじゃないかなと。それだけのポテンシャルがあるような場所かなと思いました。

これは門真市にお伺いしたいのですけれども、仮設園舎ということもあり、今後どうしていくかということが重要なところですが、これも結論ありきということではなくて、市としてまず民営化や統廃合などがあると思うのですが。

大きく分けて3つですよ。民営化してどこかであれを引き取って運営してもらおうというのが1つですよ。そしてもう1つがなくなると。あそこは何年かしたらなくなると。また、公立園として存続させる。公立園としてという場合は幼稚園なのか保育園なのか、認定こども園ということになるかもしれませんが。

民営化なのか、統廃合なのか、公立園なのかというのが。プラスしてあるのが、仮設のまま引き延ばすというのがありますが、やはり仮設なのでただ引き延ばしていけばいいというものでもない、ある程度は期限を付けて進めざるをえないというのがあります。

その参考までに、資料3に門真みらい小校区の状況について表と

図で示してもらった資料がありますので、こちらについて事務局の方から説明していただきたいのですが。

事務局： それでは、ご説明させていただきます。

資料3「浜町保育園周辺地域の状況について」の資料をご覧ください。まず、始めの表が、浜町保育園があります、門真みらい小校区の平成27年から平成31年の4月1日時点の町別の0～4歳人口をまとめております。

次に、下の表が浜町保育園に通園する児童を町別にまとめた表となります。2枚目の資料の方が、門真みらい小校区の0～4歳人口の変化を地図に落とした資料となります。点で表している町が、平成27年の5年前と比較して人口が増えた町、斜め線が逆に人口が減った町となります。

1枚目に戻っていただきまして、2つの表から見えてくることといたしましては、上の表の小校区の人口推移としましては、大きく増加した町として、中町の43人、小路町の64人があげられます。逆に、減少した町といたしましては、人数が多い町として、石原町の47人、月出町の21人などがあげられます。

全体としては、1人増と横ばいですが、中町と小路町で約100人増えている以外は、微増か減少しております。

次に下の表、町別の浜町保育園へ通園する児童数といたしましては、園児の合計91人中、石原町から通園される児童が24人と多く、全体の約4人に1人となっております。

なお、合計91人中、門真みらい小校区は72人、その他の校区からは19人となっております。中町と小路町の人数が大きく増加していますが、浜町保育園に通園している園児は少ないと。石原町については、在園児数は多いが、5年間の減少人数は47人で、突出して多いという状況でございます。

中町と小路町の人口が増加した理由としましては、おそらくマンションの建設が大きいのではないかと推測しております。ただ、現在のところ、浜町保育園周辺でファミリー向けのマンションが建設される予定の確認は取れておりません。

事務局から説明は以上でございます。

委員長： では、今の視点も含めて、浜町保育園の今後というところで何かご意見はありますか。

委員： 仮設園舎のリース料は高いのでしょうか。よく、私たちも園舎を建て替える時に仮設園舎、プレハブを借りて10カ月や1年で建て替えるのですけれど、まあまあの金額がします。

それこそ大きいところだと1年間で8千万円、9千万円するところもあったりします。今日、仮設園舎を見るとかなり大きかったので、これを、仮にこれを何年もキープするとなったら、建てた方が安い。いつまでも、4年、5年、6年と延ばすとなると、あれは借りているものになってしまいますので。

もしかしたら、門真市さんが契約して、そもそもは短かったのだけれど、イレギュラーで延ばすとなったので安い金額で借りているとかもあるかもしれない。

けれども、仮設ってけっこう高いのですよ。だからどれぐらいなのかなど。

事務局： 保育幼稚園課ですけれども、最初建設したときには最長でも1年ぐらいの契約で考えていたので、その時はだいたい1億円ぐらいです。それで3年間延長する時に4・5千万ぐらいの追加費用がかかっていますので、トータルで1億5・6千万ぐらいです。

委員： すごいですね。1年1億円ではなくて、3年ほどでということですね。

事務局： そうです。合計4年で1億5・6千万円です。

委員： だとすると、かなり値引きしてくれたのでしょうか。

事務局： そこまでの値引き感はありませんけれども、ただ、新築で建てるとなると砂子みなみこども園の定員260人の規模で10億円近くかかっています。それと比較するとそこまで費用がかかっていないという形にはなります。

委員： 建設費用が高いので、ざっくりとですけれども民間で100人そこそこの定員規模で建てているところを見るとだいたい3億円ぐらいで、定員が150人、180人になってきた時に高いなと思ったところでも5億円ぐらいで建てられているところが多いですね。

それを考えると、1億5千万円の仮設料金が乗ってくるとなると、民間保育園で1億5千万円の仮設を借り続けるのはきついですよ。

1億でもきついですね。仮設でそのうち潰すものですから。

でも、これが1億5千万の建物を建てられているのであれば、次の年や3年後にプラス1億円で増設しましょうかとか、すごくプラスな話ができるのでしょうかけれども、潰して返してしまわなければならないものですから、仮のものにずっとお金がかかっているのにもったいなさを感じてしまいます。仮設は高いですからね。

それだけの金額があるのならば、心象的にはもっと良いものを出すんじゃないのと、簡単な柱で、簡単な壁で、ではなくて、断熱材がしっかり入っていてとかね。

仮設園舎の廊下を見ても窓が欲しいなとか思いましたし、廊下が真っ暗でしたから。でも、構造的にそこは窓を入れられないのかなとか勝手に考えていましたけれども。入ると室内がクローズな感じがしたので。

やっぱり高いですね。

委員長： 広くてすっきりとはしているんですけども、味気ないと言えば味気ないですね。全体的に廊下も広くてすっきりはしている。大人が動くには動きやすいのかもしれないですけども、保育環境としてはなんとなくすっきりし過ぎている感じがありますね。

委員： 1億5千万円の金額の中に潰す費用も入っているんでしょうね。撤去費用もね。

事務局： そうです。撤去費用も込みです。

委員： やはり、なくしてしまうことが前提なのですね。建ててしまったらとも思いますけれども、期限があるのですよね。

事務局： 今から3年、令和3年度末までです。

委員： 浜町幼稚園の跡にどうこうするのか、もともと浜町保育園の跡地にどうこうするのかというのも決まっていないのですか。

事務局： それも含めて検討していただければというところです。

副委員長： 先ほどの人口の話では、地域によって差はありますけれども、全体としてはプラス1ということなので保育ニーズはまだまだあるというか、そういう見通しが立つのですか、この地域は。

委員長： 門真の中では、ましということであって、これが全然違う場所だとまた話は変わるのかもしれませんが。保育ニーズということであれば、門真みらい小校区は他がものすごく下がっている中で、現状維持というところではあるのですけれども。

他方で、先ほども言ったとおり今後の成長が見込めるのかというところも考慮しないと、これからマンションが建つわけでもないですし、ものすごく立地的に有利ということでもありませんし。

むしろ、増えている地域は遠いですし、門真市の端なのであまり浜町保育園には来ていないですよ。1人ですよ。

そういうことで、立地的にも良いのかというのが微妙なところですね。

委員： すぐ近くが守口市じゃないですか。もちろん公立保育園でということですけども、守口の子どもが通っているということはないのですか。守口からの子どもの受け入れというのは浜町保育園ではないのですか。

事務局： 今年度は0人です。

委員： すごく近いですよ。

委員： 私が保育園に勤務しているときは、他市に転居したけれども、あと数カ月で卒園なので継続して通われるという方はいました。もともと、他市からこっちに来られているというケースはなかった気がするのですけれども。

委員： 守口市の保育園などが入れないぐらいになった時に、これだけ近ければ他市委託みたいなもので子どもを受け入れられるぐらいの距離だなと。

委員長： 保育ニーズ的には将来性があるかどうかは置いておくとして、な

くすとなると少し極端かなという感じはありますよね。保育ニーズはあると言えますし。

ですので、もし、廃園ということとなったら保育ニーズへの対応に問題が出てくるかもしれませんね。

でも、民営化で続けるとなった場合に手を挙げる法人があるのかというのがありますし、公立園として存続する場合は門真市にそのつもりがあるのかと、いろいろと問題があります。廃園できないにしてもどのような形で続けるのかというのも難しいところですね。

委員： これは31年度が548名ということで、今現在91名が浜町保育園に通っているということですか。

委員長： 門真みらい小校区ということであれば72人ですね。

委員： それは一般的に言うとおかしいですが、園としてそれだけの子どものうちこれだけが来ている、この量が適切なのか、それとも本当はもっと来ていないとおかしいのか、その辺りの感覚はどうなのですか。

委員： 大和田幼稚園にも門真みらい小校区から来ている方も多くおられるので。たぶん、この中に含まれていると思うのですけれども。

委員： 例えば、今おっしゃった門真みらい小校区の子が浜町保育園に来るのが1つのパターンとするならば、そのうちの何名かは少なくとも「そこは嫌やねん」とこちらに来ているわけじゃないですか。ということはイコール魅力がないと捉えられるかと思うのですね。だから、もし、このまま園を存続させていくのであれば、なんらかの策が必要なのかなと。今のままでは結局、民意はというとおかしいですけど、NOと言っている子が増えているのかな、とここだけ見たら感じたわけですね。

もちろん、小路町はどんと人口が増えているけれども遠いから1名しか来ていないというのはなんとなくうなずける。この子は遠いながらも来ているということは、ここに来たいから来ていると捉えることができるわけですよ。

委員長： 本当に中環を越えてくるのは交通の便が悪いですよ。

委員： 親の通勤の兼ね合いかもしれませんけども。  
そんな中、石原町からはけっこう来ていますけれども、浜町からは8名しか来ていないとか、中町なんかも人数に対してすごく少なくなっている気がするのですね。  
やっぱり、傍に住んでいる人たちへの訴求力というか、浜町保育園に行くんだという魅力みたいなものが何かあったらなど。

委員長： この数字がどの程度かというのは、ちょっと分からないですね。

委員： 保育園なので保護者は基本的に働いている方になると思うのですが、この地域の中で働いている人がどの程度の割合でおられるのかということにもよりますからね。

委員長： たぶん、この校区だと、まことしょうじこども園さんやいずみっこ保育園さんなどもありますし、すぐ近くでも古川橋駅と門真市駅の間でいくつもありますからね。その辺りとの関係もここはあると思いますけれども。

委員： 定員は割っているんですけど。

副委員長： 定数が96人のところ、91人ですね。すこし割れていますね。

委員長： 続けるにしても、これは民営化であれ公立であれですけれども、何か魅力を出していかないと。土地的には非常に良い土地だと思うので、そこを生かした魅力を出していかないと続けてもしょうがないのかなとなってくるのかもしれないですね。

その辺りの問題もありますけれども、ちょっとまた違うところに話を持っていきたいのですが。今後、将来的にはこの浜町保育園をどうするかというのが、3年という時限的な問題もある。もう1つは公立園そのものをどうするかというのが公立園の最適化の会議なのでそちらの議論もあるわけですが、もともとの案としては南北に1園ずつということで、砂子みなみこども園が南部にあると。そして北部の方には、今回の浜町保育園も含めて今は3つあるのですが、それを1つにしていきたいということですね。

それは、市の考え方で示されたところなんですけれども、その1



園が認定こども園なのか、保育所なのか、幼稚園なのかというのははっきりとはされていません。恐らく認定こども園なのかなと思いますが、そのあたりはまた議論をしなければならないところです。ただ、公立が南北1園となったところで、公立園としての役割を果たせるのかという問題もあるかと思えますし、北部の大和田幼稚園、上野口保育園をどうするのかというところもあるのですが、このあたり、市として他の2園についてどのような考えがあるのか、事務局の方から説明いただければと思います。

事務局：市の考え方というところで、以前にお示しした中では、南北に1園ずつにしたいとして、浜町保育園については民間園への移行も視野に入れてとお伝えしているところです。

あくまで現時点での考え方になりますけれども、浜町保育園は浜町保育園で、例えば、大和田幼稚園と上野口保育園を統合することも選択肢の1つとして考えられると思っているところです。

ただ、北部に1園としたときに、それをどの場所にするのかというのが、例えば新しい土地を買うのか、それとも大和田幼稚園を認定こども園化するのか、上野口保育園のある場所に作るのかなども考えられますが、現時点ではそれをお示しするだけの検討が進んでおりません。

しかし、いずれの案も問題がありまして、例えば、上野口保育園であれば、敷地が都市計画道路に重なっており、敷地内でも簡単には整備ができないことがあり、大和田幼稚園であれば、敷地は広いのですが、一部が借地になっていると、それがどのように影響があるかも検討しているところです。また、大和田幼稚園も上野口保育園も耐震性能はあるのですが、老朽化が進んでおり、仮に園舎をそのまま使うとしてもいつまでも同じ園舎を使うことはできません。ただ、新園舎を建てるとなると砂子みなみこども園の例にあるように10億円程度かかることが想定されるなど、費用がかかってしまうということがあり、3園とも問題がある中で、どうしていくかを検討している段階でございます。

委員長：いろいろな問題が入り組んでいて複雑になっているのですが、1つには公立園を北に1園、南に1園にすると、前回に話のあった公立園の先導的役割を果たせるのかという問題もありますし、実際に北部を1園にすると、それぞれ問題を抱えているので

どこにするのかということにもなります。浜町保育園はすぐに対応しないといけないですし、上野口保育園は一部が都市計画道路に重なってしまっている、大和田幼稚園は土地の問題があります。

そのあたりのご意見はどうでしょう。

委員： 公立園が老朽化しているので建て替えるというのは個人的に大賛成です。将来的なことを考えて、そういう時期は大和田幼稚園にしても上野口保育園にしても、その2園に関しては1つにするのか2つのままとするのかは別としても、やはり建物には寿命というものがあると思うので。

ただ、砂子みなみこども園で10億円かかっているというのは金額がかかりすぎている気がします。同じ規模の民間保育園を建てた時に10億円もしないですよ。柳町園は180名規模で建てた時には建物だけで3億円で建っています。いろいろと詰めたりもしましたし、補助金をもらったり、借金をしたりもしていますが、さまざまなものも含めて、仮設も借りて、建物を壊してなども含めても5億円まではかかっていないです。

それが、例えば大和田幼稚園が新しくなるといときに10億円なんだとなると、どんな建物が建つのだろうと、宮殿みたいなものが建つのではないかなと思ってしまいます。

民間保育園で100名規模の施設を建てる時に10億円かかりましたというところはほぼないです。返せないです。

今回も1億5千万円、浜町保育園のプレハブ代がかかっていますけれども、家賃として考えると相当な金額で、3年・4年で1億5千万円の家賃というところすごいですよね。とてもじゃないけれども払えないですよ。

それだけの家賃を払うのであれば、もっと良いところを借りられたのではないかなと思ってしまう。だから、本当に適正な3億、4億、5億円の金額で建てると。

門真市が建てる場合は国の補助などはないのですか。市の単独になるのですか。

事務局： 砂子みなみこども園の時は、幼稚園と保育園を統合して面積を小さくするというところで補助金のようなものが入っています。おそらく50%ぐらいの交付税の措置がありましたので実質は2分の1ぐらいの負担で建てています。

借金をするときに有利な形で借りられたというところです。ただ、今回はどうかと言うと、そこを縮小なのかどうかというところがありまして、それは時限的な期間のある措置でしたので、今のところは国の補助金がありません。

それからすると、正直に建て替えだけの話で言わせていただくと、市としてはすごい額だなと。

委員： もし、例えば民営化するとなった時に民間に建ててもらった場合も待機児童がいないのであれば補助金に引っかかってこなかったりしませんか。そんなことはないのですか。

事務局： 民間さんに建ててもらうとなると本来の補助金が出ますので、待機児童がいる分の有利な分よりかは、本来の額、通常でしたら2分の1、有利な場合は3分の2ほど国に見ていただけるのですけれども、通常の建て替えの補助金については2分の1ということになります。

委員： そうなると、参入される法人さんにとっては、隣の市だと3分の2ですけれども、門真市だと2分の1と条件の悪い形での公募となるのでしょうか。

事務局： 市の補助もあります。市として現行の補助金要綱上でどのようにするかという問題もありますが、今のところは、国からの補助が2分の1でも3分の2でも、合算して4分の3となるように市が補助金を出しています。

委員長： 安く建てられるのであれば無理に公立を減らさないで、というのもないですね。

委員： 以前にもお話ししましたが、幼稚園の状況を見ていると支援が必要なお子さんがすごく多かったということで、それが公立園として受け入れていかなければならないのか、そのあたりは分かりませんが、そのようなお子さんが、仮に全ての幼稚園が民間となったときにどこに行かれるのかなというのは少し心配です。どのような理由で公立を選んだのかななどを詳しく聞いているわけではないですが。

保育園は働いていないと入れないのでなかなか難しいかもしれないですけれども、民間の幼稚園と検討されて公立幼稚園にと選ばれた方が多いのも確かなので、もし、公立の幼稚園がなくなりましたとなった時に、その子たちの行先として、こども発達支援センターではなく、幼稚園に行くだけの力が付いてきて、行こうと思った人たちがどこに行けるのかがすごく心配です。保育園には行けないので。

委員長： 公立園の役割は今おっしゃられた障がいのある子たちに対する役割がある。そして、もう1つ前回話題になって、今回、参考資料としていただいている、門真市就学前教育・保育共通カリキュラムですね。こういった障がい児でなくて、障がいを持たない子どもたちへのカリキュラムについても先導的な役割が公立には求められるという話がありましたが、こちらの資料について事務局より概要の説明をしていただきたいのですが。

事務局： 保育幼稚園課です。それでは門真市就学前教育・保育共通カリキュラムについてご説明させていただきます。

お手元に資料をお配りしてはいますが、まず、作成の経緯について、簡単にご説明します。

本市では、これまでの間、各就学前教育・保育施設及び小学校の連携が重要と位置づけ、あらゆる機会を捉えて交流を促進し、学習内容や指導方法等の情報交換、合同研修等を積み重ね、就学前教育の質の向上を図るとともに、園児の就学に向けた意識の醸成に資する取り組みを積極的に進めるなど、小学校教育への円滑な接続に努めてきたところです。

この取り組みをさらに一歩前に進め、本市が就学前教育・保育において重視する内容を明確にし、全ての子どもが質の高い教育・保育を受けることができる環境を整えるべく、公私立の枠や施設の類型を超えて、育てたい子どもの姿や育ちを共有するとともに、就学を見据えた教育・保育を実践していくため、平成30年3月に「門真市就学前教育・保育共通カリキュラム」を策定したものです。

内容ですけれども、1ページから5ページにかけて、幼稚園教育要領や保育所保育指針等の国の動きとの関係や、「門真市子ども・子育て支援事業計画」や「門真市教育振興基本計画」等の市の関連計画との関係といった本カリキュラムの位置づけを記載しております。

次に、6 ページから 15 ページにかけて、「今後の人口推移」や「就学前教育・保育施設等の状況」、「障がいのある子どもや配慮が必要な子どもとその保護者への支援」「家庭・生活環境に課題を抱える子どもや外国につながりを持つ子どもへの支援」、「地域の子育て支援の拠点としての役割」を記載しております。

16 ページには「未来をひらく子どもを育てる」という本カリキュラムの基本理念が記載され、17 ページにその基本理念を実現するための「めざすべき子ども像」が記載されております。

本カリキュラムでは各就学前教育・保育施設において育みたい資質・能力として「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つを明記し、それを達成するため、各年齢の発達と教育のねらいを定めた「各年齢別カリキュラム」を18 ページから 29 ページにかけて記載しております。

また、30 ページから 36 ページにかけて「就学前教育から小学校教育への円滑な接続」や「就学に向けての連携・交流等の取り組み」を記載しております。

本カリキュラムは、既に公立園をはじめ市内関係施設において活用されており、昨年度実施した実践報告会においては、公私立園の職員、小学校教諭等が多数参加され、本カリキュラムへの理解を更に深めるものとなりました。

また、今年度におきましては、カリキュラムの内容をより分かりやすく、ご家庭でも活用しやすい形に編集した概要版の作成を予定しており、就学前・教育保育施設だけでなく、ご家庭での教育にも役立てていただきたいと考えております。

今後におきましても、実践報告会の開催をはじめ、幼稚園教諭、保育士、保育教諭等に対する合同研修会等の実施など、カリキュラムを基本とした就学前教育・保育の充実に向けての更なる意識と指導力の向上に努めてまいりたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、概要を説明いたしました。

委員長： ありがとうございます。

公立園の役割として1つはずっとこの会議でも議論になっているとおり障がいのある支援が必要な子どもというところで、門真市では先ほど明浄委員から話のありましたとおり言語支援や療育を手厚くされているのではと、また、こども発達支援センターともしっかりと連携がとれているのではというところで、役割を果たしているの

かなと思うのですが、公立ならではの、もう1つの役割としてこのような共通カリキュラムもありますし、小学校との連携ですよね。

小学校は公立が中心ですので、公立園ならではの役割というのは小学校との連携というところで先導的な役割を果たしていけるのではと思うのですが、そのあたり、明浄委員や城野委員から何かありましたら。

委員： 小学校との連携ですけれども、以前にも言いましたが校区がすごく広がってきているのですよね。以前だと、大和田小学校、上野口小学校というのがうちの幼稚園の校区だったので、そこだと歩いて行ける距離ですけれども、いろんなところから来ているというのもありまして、本当は子ども達が行く小学校に遊びに行つてというのが一番ふさわしいのかなと思うのですけれども。

近くにある大和田小学校に遊びに行かせてもらったりとか、上野口小学校は給食交流だとか、年長さんが1年生に上がるちょっと前の2月・3月ぐらいに小学校の1年生と一緒に遊ぶ機会をいただいでいて、それはうちの園だけでなく上野口保育園と他の園もしているのかもしれないですけど。

遊ぶときは一緒に遊ぶのですが、学校の子どもさんと一緒に過ごして小学校ってどんなところかという取り組みはしていただいでいます。ただ、そこに行く子どもさんの人数がすごく少なくて、逆に門真みらい小学校に行くお子さんが多いので、小学校によって雰囲気が違うのでどうなのかなと思うところはあります。

でも、小学校ってどんなところというのは、大きなところから見たらだいたいこんなところだよっていうのは子ども達にも分かるのかなと思うのですけれども、本当に近く歩いて行ける小学校に限られるので、遊びに来ませんかといろいろなお誘いが小学校から来るのですけれども、徒歩で行けないので少し難しいです。

委員長： 逆に今の人数だと、来る範囲からするとやりにくさというのが。

委員： そうなんです。人数が減ってきて少ないのですけれども、今は13校区ぐらいから来ていると思うのです。

委員長： それだと、確かに。本当に行くところでないと連携がね。

委員：今は11小学校区ですね。本当にすべてを網羅するのはとんでもないので、近くの学校でとなるのですけれども。

委員長：こういう感じのところに行くんだよということになりますね。

委員：あとは、小学校入学前にお母さんと一緒に行ったりとかはあるのですけれども。

委員長：1校区から1人ずつ来ているぐらいですよ。

委員：本当にそんな感じになっているので。昔はそうじゃなかったです。ほとんどが大和田小学校、上野口小学校に行く子供たちだったので、今は1人とか2人とかになっていますね。

委員長：そのあたり城野委員はどうですか。

委員：前から思っていましたけれども、幼小連携、幼小中連携などいろんな連携について門真市もすごく深く考えて作っておられると思うのですが、実際現場では、今おっしゃったように結局学校任せ、園任せのところがあるのですよ。

例えば、目指す子ども像があるのであれば、今日、視察をした際に浜町保育園の園長代理の方がおっしゃっていただきましたけど、あそこまで行くのが1つのゴールだとした時に、では、園の先生のところとなると「Aちゃんはまだひらがなが書けないのですけれども大丈夫でしょうか」とすごく心配されて小学校の先生に聞かれるんですね。僕は個人的には時期がきたら覚えるよと、言うってしまうのですけれど、園の先生からすれば、「この時期には書けている子が多いので、やっぱりこの子にも書いてもらいたいし」と言うのですね。

それは、その子にとってすごく辛いことかもしれない。僕たちからすると元気に入ってきてくれればそれで良いと思うのと、それとこの枠がしっかり明記されているにも関わらず、それがやっぱり浸透していないのが1つですよ。絵に描いた餅になってしまっている。

それで、小学校の現場がどうかというと、来年度から施行される新学習指導要領でいろいろと話がありますが、一部の人は真剣に捉

えている、そして一部の人はなるようになるだろうと考えているのが現状です。現場的には。

そうした時、先ほど先生がおっしゃったように、子どもの来る地域がバラバラなのでいろいろな学校に行くのが大変だと。

そうではなくて、例えば浜町保育園からすれば、横に「小学校」があるんだ。門真みらい小学校でなくて、「小学校」があるんだと。なら、あの小学校をもっと活用できないかと。小学校はこういうところなんだよと、だから門真みらい小学校に通おうが、通うまいが、小学校に慣れ親しんでもらう。

先ほども少しお話ししてもらいましたが、トイレなんかも小学校になると和式がメインになってしまう。先ほどの浜町保育園だとすべて洋式じゃないですか。なら、あの子たちが小学校に入る前に和式トレーニングをしている時代でしょう。ここも長い目で見ると一貫性の部分からずれてきてしまう。

何が一貫性なのか、いつも不思議ですけれども、もっと手を加えないといけないところがあるだろうと、物理的にも、精神面的にも。だから、そのところで逆行する。せっかく発達したところにまた元に戻ってしまうような、平成に生きた子が令和に生きようとしているのに、また昭和に戻ってしまうような感覚なんですね。そのところにすごくもやもやしたものを抱えています。

本当に、門真みらい小学校なんかは、名前に「みらい」と付いているぐらいですから、1つのモデル校なのかなと僕は思っています。であれば、それは小学校として二島であろうが、大和田であろうが、五月田であろうが、小学校は小学校なんだと、その文化を園の子たちが横にいるのであればもっともっと日常的に。

それと、園児が小学校に来るのも大事ですけれども、もっともっと小学校の先生及び小学生が訪問する。中学校は小学校に来たりするので、逆に小学校も園にもっともっと行けるような環境づくりが必要なのかなと。そういったところもこういったところで謳ってもらおうと、ひょっとしたら小学校は動くのかもしれないですね。

委員： 去年も上野口小学校の3年生が1年間通して、園と交流したいというのがあったのですがけれども、それは1年限りになってしまって、そのあたりはおっしゃっているとおりにもっと何かできたら良いのかなと思いますね。



委員 長： 今日、視察した仮設園舎の立地なんかを考えると門真みらい小学校が門真を象徴する小学校であると。例えば浜町保育園の位置する場所に、次にどのような施設になるかは分からないですけども、公立のこども園なんかで門真を象徴することができれば、そこで連携すれば、他の小学校に行く子ども達も、幼稚園なりこども園なりに通っている時に連携できていると思えば良い。物理的に、自分は別の学校に行くかもしれないけれども、今通っているこの隣の小学校に行って感じたことが生かせるかもしれない。そのようになればいいですね。

委員： 給食なんかはすごく分かりやすいところで、このぐらいの時間で食べないといけないとか、牛乳はこう開けないといけないよとか。  
大和田小学校も休憩時間に一緒に遊ばせてくださったりするのでチャイムが鳴って、子どもたちが入ってくる様子などを見ることができるので、そういった面で深い連携とまではいかななくても、小学校ってどういうところかという感じでは見れているのかなと。

委員 長： どうしても、今日は見学に行った前提で話をしてしまって申し訳ないですけども、少し話を戻させていただいて、五十野委員と辻本委員は今の話を聞かれてどうでしょう。どのように思われますかというのも難しいかもしれませんが。

委員： 門真市だけじゃなくて、少子高齢化で子どもの数が減っているということもありますけれども、まず、門真市に若い人が住みやすいようにしていただくというのが。基本的に子育てがしやすいということですから。

やっぱり、働きながら安心して子どもを育てられるというのが。

この前に、延長保育の話なんかもありましたけれども、ああいうのは具体的にお話を進めていただけるというものなのではないでしょうか。

親の声を具体的にどのように反映していただけるものなのではないでしょうか。

事務局： そうですね。具体的に延長保育ということとなると、市の職員の労働条件などの問題もありますので、すぐに話ができる場所ではありません。

確かに、今おっしゃられたような内容については、今、様々な計

画が進んでいる中で、市として子育てがしやすいまち、環境づくりをどうしたらいいという話はあるのですが、そうしたら具体的にどうしたらいいのかというのは、様々な課題をクリアしていかなければならない部分がありますので、今の時点で事務局からこれと言うのはなかなか申し上げにくいところではあります。

委員： まずは、働くお母さんは切実にそういうことを望まれていると思いますので、その方たちの声を聴いていただける場所があればと思います。

委員長： 本当におっしゃるとおりで、立地的には隣に位置する守口市だと増えているのですよね。子どもの人口と子育て世帯の数が。

それで、これは別の会議で計画を作っていると思いますがけれども、守口市の場合、どちらかというとフラットで考えている。今、少し増えてきたところなので、あまり増やすのもあれなのでフラットで考えている。門真市の場合は、かなり減るという中で計画を考えなければならぬので、子育て世帯にとって魅力があるといいですよ。

守口市は無償化のところでは先手を打った感じもありますよね。そうすると何か手を打つと効果は出ると。関西でも何市か、明石市など有名どころもありますから。そのように住みやすいまちとして新しい政策をする時に、公立というのが何か役立つようになればいいのかなと思いますよね。

辻本委員はどうですか。今日は見学の話ばかりになってしまっていて申し訳ないですけども。前回のところでは、公立か民間かというのは園を選ぶ時に考えない方が多いのではという話でしたけれども、どうでしょうか。もし、公立ということで続けていくとしたらどのような役割が必要だと思いますか。今、行き届いていないところだとか。

委員： 門真市でもお祭りとかエコパークや新しくできた体育館での催しがされていて、子育て世代の方にとっては楽しいイベントが増えてきているのかなと感じています。子ども達もガラスケが大好きで、ガラスケの周りに集まって行ったり、けっこう楽しそうにはしているので、とても魅力のある市だとは思っています。

守口市は無償化していて、そこが大きいのかなと思うところです

けれども、どうしていったら良いかとかは分かりませんが、門真市も魅力的なまちだなと思っています。延長保育についてはおっしゃっていたとおりです。

委員長： 子ども達向けの行事が地域子育て支援拠点などでされていますけれども、そういうのにはよく行かれるのですか。

委員： よく行きます。柳町園さんにはよく行っていて、こども食堂にも行かせていただいたりしています。こども食堂もすごく増えてきていますし、すごく未来が広がってきている市だなと感じています。

委員長： そういうところは本当に民間さんでも頑張っているということですね。公立の方でもそういう面でも何か、来た子ども達だけでなく、地域全体の子育てにも何かしていければいいのかなと思いますね。

委員： うち民間でさせてもらっていて、うちの法人は随分と長く門真でさせてもらっています。門真の民間保育園でも何十年もしているところがたくさんあって、民間というか私立というか、そういう形では保育にずっと携わらせてもらっているのですが、公立幼稚園・保育園というものが、民営化するとなったときに、どうしても私たちは胸が痛いイメージを持たれるというか。私たちは真摯に子ども達に向き合って保育をしていますので、公的な責任を持っているのですけれども、公立さんが公で、私たちは商売というか、そういうイメージがあるのかは分かりませんが、民間にはそういう責任が果たせないんじゃないかというふうに捉えられてしまう。

やはり、柳町園にしても建物を建てるのに法人で借金をして建てていますし、年度会計がマイナスになれば法人が被らなければならなくなります。正直、浜町保育園のようなリース料なんて、4年で1億5千万円となると年間で4千万円ぐらいですから、1年間でそんなにプラスにならないです。払っていけないです。

でも、良いことをしようと思って環境を整えて、職員を教育しています。やっぱり子どもを受けているのですし。

それと、明浄先生がおっしゃられたように、民間保育園も巡回指導に来ていただいています。公立の先生に来ていただいていますので、そこは同じ門真の子どもなので、公立にしか行かないというこ

とはなく、市の職員の方に来ていただいて、見てもらっているのです。

何かイメージが先行してしまう。別に民営化を進めてほしいからこのような話をしているのではないですけども、でも、障がい児を見てもらえるから公立が必要なんだというのは、話が少し違うような気がします。

そこが公立のポイントではなくて、やはり、公立は公立として、民間は民間としてという境目を僕はあまり感じていないのですけれども。でも、何か民営化されるという話になった時に、保育が悪くなるというイメージが先行してしまいますので、それはやはり、もし、民営化するのであれば、民営化を受けられる園をきちんと精査するべきであるし、今の公立保育園の保育がどれだけ良いをしているかというものを、例えば第三者評価を受けるとかをすべきなのかなと思いますよね。

それで、保育として先導するような良い保育をしているのが公立としてあるよというのがあれば僕はいいなと思いますし。いやいや、民間保育園も負けていないんだよという形で共に門真の子ども達を受けられたらいいのかなと。

保護者は公立だから、民間だからという枠組みで入園を決めずに、どこどこ保育園だからということを決めているところが多いと思いますので。ちょっと話がずれたかもしれないですけども、でも公立さんは公立さんで頑張っていたきたいなと思いますし、うちもうちで頑張りたいなと思います。

なかなか、公立の特に幼稚園さんとは接点がほぼないのですね。だから、そのような接点を増やしていったらいいのかなと思いますし。

委員： 大和田幼稚園はおおわだ保育園とは交流をしているんですよ。すぐ近いので。一緒にうちの園で遊んだり、向こうの園に行き遊んだりとか、唯一接点がありますね。

委員： いいですよ。

だから、浜町保育園さんと上野口保育園さんも仲良くしている施設はあると思いますし、柳町園は離れていますけれども理由があればうちは全然協力させてもらいますし。保幼小の連携というより、保保とか保幼の連携ができていなくて、保幼小も各園と各小学校となくなってしまっているのです。

委員： 上野口小学校は体育館をお借りして、大和田幼稚園と上野口保育園と一緒に遊ばせていただいたりしているので、その形だと、民間の保育園さんも一緒になってできるのかなと。おおわだ保育園とはお昼ごはんを一緒に食べたりとかもしているのですけれども。

委員長： 今、おっしゃっていただいたとおりで、公立から私立になることが何か、どうしてもそういうイメージが。実際はそうでないということは分かっているのですけれども。

委員： そういう場合もあるかもしれないですけれども。

委員長： 他のいろいろな分野で民営化となった場合は、民営化によって質が落ちるのではないとかの意見になりやすいのかもしれないですけれども、保育については必ずしもそういうわけではないですし。もしかしたら、逆かもしれないですし。

あまり無理に分けて考えるのも良くないと思いますね。それぞれが交流する中で役割を果たして行けるのだと。

委員： 公立の幼稚園で保護者の方に選んだ理由などのアンケートを毎年とるのですけれども、公立だから選んだという回答はあまりないです。やっぱり保育内容などを、うちの園だけかもしれないですけれども、保育内容を見て考えましたとか、ここが良いと聞いたからとか、無記名のアンケートですけれども、そういう方が多かったので、保護者の方はやっぱりどのような幼稚園なのかとか、子育て支援もしているのか、遊びに来られて入られた方もいますし、そのあたりは公立だからとか私立だからという感じではないのかなと思います。

でも、やっぱり公立園として何ができるのかなということは考えないといけないですけれども。

委員： 根本的なところを教えてくださいなのですがすけれども。僕のイメージでは公立園は縛りがいろいろとあるのかなと感じるのですね。そして私立は自由度が高いのかなと、だから、トップが、経営レベルの人たちが思うことをやりやすいのかなと。逆に言うとリクエストに応えやすいのが私立なのかなと、なんとなく思っています。

それで、公立はさっきのトイレの話もありますけれども古いイメージがあって、だから、親の立ち位置に立ったときに、この子を同じレベルというか同じ環境であれば、金額的にも変わらないのであれば私立に行かせるのかなとか、と思っているのですけれども。

実際、自由度というか、そのあたりはあまり変わらないものなのですか。

委員：そこは申し訳ないですけども、公立の園長先生のご苦勞は絶えないと思います。やはり、公と私立の違いというのは園長に決裁権がないので、職員と話し合っ、て、こういうことをしようとした時のお金の予算配分とかが、法人だと理事長にお伺いを立てる理事会がありますけれども、やはり、なかなか市の予算がないからということできないことも多いと思いますよ。

それで、単年度だったり、長期的にであったり、今年度これだけのお金を貯めて、3年後にやろうかというものだったり、3年後にするのであれば、今、借金をして3年間で返して、やってしまおうとか。

だから、今日の浜町保育園さんも3年あるんだったら、今から3年間お金を貯めて3年後にやるのではなく、今すぐにやって3年間借金を返すという方法を取ったりとか。そのようなスピード感は公立の方が苦勞すると思いますね。

それと、門真市がどうかは分かりませんが、市の公立保育園・幼稚園さんというのは同じ保育をしなければならないという感覚を持たれている先生がおられました。門真市は分かりないですけども。

1つの幼稚園さんがこれをしたならば、ここも、ここもと同時にする。悪く言えばAができて、Bができて、Cができないというのであれば、じゃあ、みんな止めておきましょうとか。

だから、各園の特色というのがあまり、民間保育園だと全部ばらばらですけども、そこまでの差がない。やっぱり、出さない、出せないのかなと。だから、連携して高めているのか。

委員：お金のかからないところでは、交流とかもそうですけれども、各園でやっぱりやり方も違いますし、その辺りはこっちサイドで校長先生と話をしながら、それでいける部分は、こういう教育がしたいなというのを少しはできるのかなと思っています。

お金がかかることに関しては、おっしゃっているとおりなかなか

難しいところもあるのですけれども。だから、どういう教育内容をした  
たいというのは、先生たちと話をして、それが可能であるのであれば、  
別にあそこの園がやっていないからできないとかいうのはないです。  
ある程度のところは。あまりにもというのは難しいですけれども。

幼稚園に関しては、南幼稚園があったときは南幼稚園と違うこと  
をしていたりだとか、南幼稚園でできてこちらでできていないとい  
うのはけっこうあったので、そのあたりはそこまで縛られているとい  
う感覚ではなかったですけれど。

保育園もいろいろな保育園を回りましたけれども、そこそこで多少  
違ったりとか、カリキュラムなども違いますので、微妙に子どもの様  
子で変わっていますので、まるっきり同じ形ではないですけれども、  
根本のところは同じにしていこうかという思いは同じ方向を向いて  
いると思うのですけれども。なかなか難しいところですね。

委員： A保育園で食育のために畑を作ろうとなって、B保育園、C保育  
園もやりませんかという話になったときに、B保育園は畑をするに  
はスペースがないからと言ったら、じゃあ止めときましようねと、  
全部の園がしないとかね。これは門真市だけの話でないのですけれ  
ども、やっぱりそのような悪く聞こえるように言えば足並みを揃え  
るではないけれども。そのような相談も門真市ではないですけれど  
も受けたことがあって、でも、それを聞いた時に勝手に、「ああ、そ  
れは公立らしいのかな。」と思ったり。

僕は民間保育園の園長会をしていますが、そんなことはないので、  
そんなところまで、うちの保育にやいやい言わないでくれという話  
ですから。

委員： 門真市に限ってはそれはなくて、畑をつくる場所がなければプラ  
ンターで作るなり、できる方法でどうしていけばいいかを考えてい  
ます。

委員： もしかしたら、予算を執行するところが、ここの園にだけお金を  
おろすということができなくて、結局4分の1ずつになるとか、そ  
ういうことはあるかもしれないですね。今、ここが一番必要だから  
ここにとかではなく。平たく言うとね。

委員： なおさら公立園は特色が出にくいというか、出せないというか。

委員： 出しにくいところはあるかもしれないですね。

委員： 発信はしていかないといけないのかなと思っていますけれども。

委員： 特色がないわけではないと思うのですけれども。

委員長： 先ほど、小学校との交流なんかは園長の判断でということでしたしね。

委員： そうですね。

委員長： やっぱりお金がどーんとかかってしまうことについては、ここになにかすごいものを作ろうというのは。

委員： そういうことをせずに、どうしていこうかというところを考えないといけないので、そこは少し難しいですね。

委員長： いろいろと意見が出ましたけれども、時間も4時半となりましたが、他に何かありましたら。

それでは、特にありませんでしたら、次第の2で「その他」とありますけれども、事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは、ご説明させていただきます。

本日の会議の内容につきましては、事務局にて会議録を作成いたします。作成しました会議録につきましては、概ね2週間以内に、市役所別館1階の情報コーナー及び市のホームページにて公開をいたします。そのため、事務局にて会議録が作成できましたら、郵送等にて送付させていただきますので、届きましたら、誤りがないか等のご確認をお願いいたします。

次に、次回、第4回の内容につきましては、今回を含めて、これまで委員の皆様いただいたご意見を集約しまして、答申（案）を事務局で作成し、お示しをいたしまして、その内容を中心にご意見をいただきたいと考えております。

開催日時といたしましては、8月26日10時30分から、この会場の横の部屋の第2会議室での開催を予定しております。



ご多忙の中恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。  
以上でございます。

委員長： ただ今の事務局の説明について、何かご意見やご質問はございませんか。

特に無いようでしたら、以上をもちまして、「令和元年度第3回門真市公立園最適化検討委員会」を閉会いたします。

皆さま、お疲れさまでした。

(以上)